

世界の理不尽

山梨市立山梨南中学校二年 乙黒 夏輝

私は女性だ。でも学校でズボンの制服を着て生活している。私は自分の性別を気に入っていない。今も学校が休みの日は男装をしたり、メンズの服を着て過ごしている。これを他人は「変だ。」と言う。

世の中には理不尽な現実がたくさんある。高齢者を罵倒する人、自分が産んだ子供に暴力を振るう親など、さまざまな人間が存在する。私はその中の、自分の性別が嫌いな人間、だ。世間ではそれを性同一性障害、という。私はその呼び名にも苛立った。障害、つまり普通の人ではない、ということだろう。誰しも自己紹介などで「自分はこれが好きだ。」と言う機会は多数あるだろう。それと「自分は自分と違う性別の方が好きだ。」と言うのとでは何が違うのだろうか。私は自分が変だ、と思った事は一度もない。私は自分の好きな物や事を好きでいたい。そして「好きだ。」と言いつけていたい。

私は世の中の人には性別に対して勝手な固定観念があるのだと思う。そこで十人の友達に二つの質問をした。まず一つ目の質問は、一人称が俺の人がいる。この人は男性だろうか。女性だろうか。この質問に対して男性と答えたのは十人中十人だった。次に二つ目の質問は、目の前に髪が長く、スカートを履いた人がいる。この人は男性だろうか。女性だろうか。この質問に対して女性と答えたのは十人中十人だった。もっと質問に答える人を増やせば、結果が変わるかもしれないが、今回はどちらの質問も答えが全員一致した。このことから、質問に答えた十人は、俺という一人称の人は男性だけ、長髪でスカートを履く人は女性だけ、という固定観念があるのだろう。私はこの固定観念を間違っているとは思わない。ただ、この固定観念に捉われず、自分の好きを貫ける強さが、私は人の強さだと思う。

そうはいっても、私が自分の好きを伝えても、相手に理解してもらえない、変だと思われて、傷つかないわけではない。私もこの事について様々な悩みを抱えて、何度も泣いた。今は自分に自信がついてきたけれど、やはり悩みを一人で抱えこむのはつらいことだ。そして私に一つの疑問が浮かんだ。なぜこんな事で私は苦しまなければならないのか。好きな物を好きと言えない、そんな些細な事なのに、私は他の人と同じように接してもらえないのはおかしいと思った。それから私は自分の気持ちを隠すようになった。だが、言えな

い方が苦しかった。自分の好きが伝えられないつらさがこの世で一番怖い事なのだと気付いた。でもこの悩みはなかなか人に言い出せない。それでもこの悩みを抱える人は少なくはない。こんな苦しみを味わう人が多くいるという事実には私は少し安心すると共にとても驚いた。これは世界の深刻な問題だ。これは性差別に限ったことではない。

様々な理不尽に頭を抱える人の中には現実から逃げる人、諦める人、苦しみを恨む人、たくさん向き合い方をする人がいると思う。誰しものが苦しみから抜けだそうと考えて、時に泣きながら抗う。では、どうすれば救われるのだろうか。諦めてしまうのが一番簡単だが、それでは本末転倒だ。人に相談するにしてもなかなか言い出せないものだ。そこで、自分と似たような理由で苦しんでいる人に相談をして、共感をしてもらう事、が得策ではないかと考えた。なかなか難しいが人と人の繋がりはとても大切な事だ。私も以前、ある友人達に「男装した姿を見せてほしい」と言われた事があった。最初はどうせからかわれているのだろう、と思ったが、どうしてもと言うので、後日男装した姿で友人達に会いに行った。すると、友人達は「自分の気持ちに素直で格好いい。」や「つらくなったら互いに助け合おう。」と言ってくれた。友人達も親からの虐待や自分の性別と同じ人に恋愛感情を持っていることで苦しみを感ずる、同じような理由で悩む人間だった。それから何回か会って、相談会などをしたり、一緒に遊んでもらうことで少しずつ自分の冷たい感情が溶けていった。それは、友人達も同じだったようだ。人と人の繋がりは何にも代えがたいかけがえのないものなのだと感じた。

世の中には理不尽に囚われ、命を落とす人もいる。そのつらい問題への解決策は、自分の好き、を好きでい続ける事、「好きだ。」と言いつける事、似た悩みや苦しみを抱える人と助け合う事、だと思った。これをして、救われない人もいるかもしれない。それでも絶対に諦めないでいてほしい、と私は思う。そして、今回自分の苦しみや胸の内を文字にした事でも、少し心のつらさが和らいだので、少し嬉しくなった。理不尽な理由で悩み苦しむ人がこの世から減り、人々が自分の気持ちに素直に過ごせる世界に、少しずつでも良いからなっていてほしいと思う。